

1. 事業目標達成状況の評価年月日	平成28年6月30日					
2. 地区名	ほうだつしみず 宝達志水地区					
3. 評価者	宝達志水町					
4. 事業目標達成状況の評価	(上段):計画 下段:実績					
事業目標	指標		事業前	平成26年度	平成27年度	備考
	技術研修会の開催 (人/回)		0	(25人/1回) 50人/1回	(50人/2回) 50人/2回	
	地域農産物等のPR活動 (枚/回)		0	(100) 100	(100) 100	
本交付金の評価	平成26年度	農村資源保全推進対策	<p>地元農産物を次世代に継承するため、産地づくり計画を立て、営農経験者による「農業機械セミナー」研修会を開催した。効率的な農作物の生産方法を学ぶことで規模拡大や新たな生産技術に取り組むきっかけとなった。(参加者:50名)</p> <p>北陸新幹線金沢開業に伴い、能登への観光客の増加も期待できる中、首都圏への地域農産物、農産加工品のPR活動を行ったことにより、農産物等の販売量増加が図られ、耕作者等のやる気、活気が出てきた。</p> <p>宝達志水町が世界農業遺産の認定地であることを広く周知するため、イベントでの掲示やパーキングエリア等への設置を行った。</p>			
	平成27年度	農村資源保全推進対策	<p>産地化やブランド化に向けた戦略づくりを行い、地域特産物ブランドを目指し、県内外でブランド化に携わった講師による研修会を行い、地元産を使った新たな加工品を作ることができた。また、宝達志水町の農産物ブランド化を図るため、「ふるさとの宝」発掘学と題し、農産物を活かした地域活性化に向けた基調講演を開催した。また、第2部として参加者を交えたトークセッション型の研修会を実施した。</p> <p>平成26年度に引き続き、首都圏への啓発活動を5回実施し、地域農産物、加工品PRを行い、販路開拓、需要の掘り起こしを行った。</p> <p>宝達志水町が世界農業遺産の認定地であることを広く周知するため、ポスターを作成し各所に掲示した。</p> <p>町では「オムライスの郷」として地元産を利用したオムライスによる町おこしをしているが、さらなる地域活性化に向け、新たな加工品を開発するなどの活動計画を策定し、PR、地元農産物の拡大などに繋げていく。</p> <p>宝達志水町が県内一の出荷量である「いちじく」の新たな加工品を開発することをめざし、農産物販路拡大調査を行い、加工品の開発、販路拡大を行うことで生産者の意欲向上が図られた。</p>			
事業全体の評価	全体総評	<p>事業目的に掲げた2つの指標についてはいずれも達成した。</p> <p>宝達志水町は世界農業遺産「能登の里山里海」に平成25年度に追加されたこと、地理的に最南端に位置することから域内でも比較的認知度が低く宝達志水町が世界農業遺産認定地と明確にPRを重ねたことは、認知度向上に一定の役割を果たした。</p> <p>地域ブランド化研修会と技術研修会の開催により、生産者の技術向上、生産コスト低減に一定の効果があつたものと思われる。</p> <p>農産物加工品の首都圏等での販売は、今後の販売拡大が期待できる取り組みであった。</p> <p>今後も継続的に取り組むことにより、事業効果の継続拡大を図る。</p>				

活動状況写真



首都圏開催イベントでのPR



明治大学学園祭でのPR



世界農業遺産ブランド化講習会